

リレー記事 No.114

リチウムイオン電池と発煙・発火トラブル

モバイルバッテリーや電子機器に内蔵されているリチウムイオン電池は、小さく軽量でありながら、大きなパワー、長寿命という優れたものです。その特性ゆえ私たちの生活に欠かせない存在となっています。その一方で、強い衝撃や圧力が加わったときに、発火につながるトラブルが加速度的に増加しているそうです。

乾電池やその他の電池も発火の危険性はあるものの、リチウムイオン電池は中に燃えやすい液体が入っていることもあり、発火リスクが特に高いとのこと。リサイクル工場では、プラスチック製容器包装のベールの破袋の過程で、混入したリチウムイオン電池がショート・発火しコンベアや建屋が延焼するといった事故が増えているそうです。



リチウムイオン電池



ニカド電池



ニッケル水素電池



店頭回収BOX

回収品目の一例



※レジにてお預かりします。

また、乾電池などは磁石につくので除去しやすいそうですが、リチウムイオン電池を含む電子機器は磁石につかないものが多い上、本体はプラスチック部分も多いので一度発火するとなかなか消火できないという問題もあります。

火災トラブルによって事業者は深刻なダメージを受け、復旧に時間を要したり、撤退に追い込まれたりする事例もあるということです。

から、日本のリサイクルシステムにも大きな影響が出かねません。

この問題のためにすぐできることは、私たち生活者が適正に分別廃棄するということがあげられます。本体は各自治体等設置の小型家電回収ボックスに、電池は自治体のほか、家電量販店やホームセンターなどに回収ボックスが設置されているそうです。詳しくは以下で検索されて地域の拠点をご確認ください。

コロナ禍とエコけんの活動

あれよあれよという間に、コロナ禍という災いによって、私たちの日常は突然大きな変化を強いられました。それによって、世界がいかにつながっているか改めて実感しましたし、巣ごもりの厳しさも知りました。

さて、コロナ禍中のエコけんの活動についてご報告します。これまでエコけんの活動の多くは対面が前提でしたし、体験やコミュニケーションを特徴としてきましたので、活動のあり方を根底からひっくり返され途方に暮れました。しかし、かといってじっとしていたわけではありません。「さてどうする」と暗中模索ながら「してみんとわからんし、事態は変わっていくとは思うけど。」と前置きしつつ、思いつくところから、できるところからと動き始めてみました。以下はそれをまとめたものです。

○多人数参加をあきらめる

「かえっこ」に代表される多人数参加イベントは中止
一教室あたりの参加者数を1 / 3程度に縮小

○動画やオンラインなどを活用する

Zoom等を使ったオンライン会議に
チャレンジ
動画づくりを加速。
リモートセミナー受講

○感染症対策を具体化する

講座実施時のガイドライン作成
手作り布マスクの商品化と販売
対策グッズ等の整備
ごみ拾い企画の中止

○時間ができた分、企画や広報・環境整備を 充実させる

つながりひろばでは全登録団体との面談実施
新たな広報物作成や出前講座の見直し



▲ You Tubeで教室紹介



▲ 大人気だった手作りマスク

この先、以前と同じ暮らしになるかどうかは定かではありません。しかし私たちが生活し続けることは明らかです。できうる限り変化に耐え、厳しい今の時勢だからこそ手にした機会を大切にしながら新しい取り組みにもチャレンジできるのだと思います。微力ながら、地域の暮らしがよりよくなるよう活動したいと思います。

このところ、Facebook等で活動の様子をお知らせできていることをありがたく思います。お時間がありましたら時々覗いてみてくださると嬉しいです。

未来を創ろうインタビュー

No. 70 古賀市立図書館 館長

長崎 功一 氏

古賀町役場時代から市役所にお勤めされ、現在は古賀市立図書館の館長である長崎さんに、お話を伺いました。農振協議会に携わっていたこともあり、いろんな法律の勉強をしたことや、農家の方をはじめ、地域に出向くことでそれぞれの特色や文化を知るようになり、それが楽しかったそうです。

エコけんとは、エコロの森（古賀清掃工場）の建設当初にお会いされていたようです。数十年前の懐かしい話をして盛り上がり、最後まで時間一杯お話していただきました。



Q. 未来のために、今、何が重要だとお考えですか

A. 地域の活力（元気）。

「活力」とは、教育（学習）・福祉（健康）・産業力・文化環境を意味していて、それらの原点は「人」が基本です。点（個々の人間力）が線（地域力）になり、面（まちの活力）のように繋がっていくと思います。そのためには、生涯学習＝自分自身を高めしていくことが、大切なこと。その一つのツールとして、「読書」があるので、ぜひ憩いの場所である図書館を利用して、自己を高めていただきたいです。

Q. ご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

A. 健康管理に気を付けること。

《未来を創る私の思い》

自分を磨く

長崎さんのお孫さんは、現在5歳。これからもお孫さんの成長を見届けていくのが楽しみだそうです。そのためにも体力をつけたいと、よくジョギングをされています。

今はちょうど、スポーツや読書の秋。コロナ禍で、自分を見つめ直したり、それこそ自分を磨く時間になっている人もおられるのではないのでしょうか。

「古賀市立図書館」はエコけんが受託運営している「つながりひろば」（古賀市生涯学習センター）と同じ敷地内にあります。読書や市民活動など生涯学んでいく方法は人それぞれありますが、その一人ひとりの力が地域の活力に繋がるよう、私たちも励んでいきたいと思いました。

《伊藤》

未来を創ろうインタビュー

No. 71 古賀市青少年育成課 会計年度任用職員

鎌田 亜弥 氏

通学合宿をはじめとして様々な地域のボランティア活動に関わっておられる鎌田亜弥さんにお話を伺いました。もともとボランティアに興味があったわけではなく、高校生の時に先輩の誘いで“レッツ トライ トライ トライ”（子どもの健やかな成長を願って企画された古賀市の体験活動）の手伝いをしたのをきっかけに、大学生、社会人になっても関わり続けられているそうです。エコけんのぬりつなぎ計画にも参加してもらいました。



Q. 未来のために、今、何が重要だとお考えですか

A. いざという時にも助けあえる顔の見えるつきあい

Q. ご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

A. 近所で挨拶するときに、ひとこと添えて会話するようにしている。

《未来を創る私の思い》

たくさんの人と関わること

子どもに関わるボランティア活動を長年、続けてこられたのは、子どもの成長が見え、かつ、興味深い情報や知識を得ることができて、「自分が楽しい」からだそうです。ボランティアは他人のためだけでなく、自分のためでもあるというのを実感しておられます。子どもだけでなく、地域の行事にも声をかけられると参加しておられるそうです。鎌田さんのまわりの暖かい人のつながりが想像できました。こんなつながりが広がると居心地のいいまちになりますね。

《Mis. W》



ぬりつなぎ計画

目的:「ぬりなおし人材の育成」「原資を寄付とし、寄付文化の定借を図る」平成29年劣化が激しかった4か所の古賀の壁画を塗り替えました。